特247
479

政治原理の考察

滿田巖

始

ま247
479

大體自由主義だとか民主主義は怪しからぬ、舊體制だといふことは能く言はれるのですけれども、何故さうなるかといふ風な解明に至つては非常に少いと思ふのです。而も自由主義の批判ありとすれば、必ず今までの常識では、それは社會主義的な見地から自由主義といふやうなものを批判して來た、例へば封建主義があつて、それから自由主義に發展して、その次に來るべきものが社會主義だ、それが今までの定說のやうにされて來たのであります。

私達は先づ茲で一番最初にそのやうな形式、そのやうな偶像を打破して掛らなければならないと思ふのであります。抑〻自由主義といふものは十八世紀の末アメリカの獨立、それからフランス大革命といふものに伴つた皆さんの能く御存じの彼の人權宣言、人間は生れながらにして平等であり自由であるとされは人間が持つて生れた權利であるといふ所謂人權天賦說といふものを根據に置いて居るのであります、民主主義はその思想を原理としたものに外なりません。併し吾々が注意しなければならないのは自由主義、民主主義といふ言葉それ自體では決してありません、自由とか民主とか平等とかいふその言葉自體を捉へて如何に詮索して見ても、フランス革命、アメリカ獨立以來世界の政治を支配して來た民主政治といふものの實體は聊かも觸れることは出來ないのであります。考へて見ますのに、その場合の人間の自由平等といふものは果して誰の自由であり、誰の平等であつたかといふことに吾々は先づ注意の眼を向けなければならないのであります。フランス革命に例を取りますれば、當時の自由平等といふことの先頭に立つたのは何れも現實的な一定の國といふものを持たない人々、卽ちユダヤだつたのであります。フランス革命はイギリスのブルジョアとそれからフランスに入つてゐたユダヤとの合作に依るフランス王黨派顚覆の陰謀であつたといふことは間違

ひのない事實であります。自由平等、如何にもその言葉は立派であり、輿論の支持を受けるやうに見えるのでありますが、併しそれをフランスの當時の現實の政治と結び付けて關聯して考へて見ました場合、その自由、その平等といふものはユダヤ人のフランスに於ける自由であり平等以外の何物でもなかつたのであります。併しこれは當然なことで、國を持たない彼等がフランスに於て勢力を得る爲にはどうしてもフランス人と同樣の地位を獲得しなければならなかつたのであります。これはフランス革命に例を取つてお話したのでありますが、それ以來自由平等といふものは恰も人類最高の理想であるかのやうに吹聽されて來た、今日までの近世デモクラシー政治といふものの根本の原理は畢竟はそれなのでありまして、その最大の目的とする所は國家の否定なんであります。彼等は先づ自由を得、平等を得、隨て一國の中に於ける各人の自由平等のみならず、世界人類が總て自由平等であるといふ見地から當然其處に問題になつて來るのは國際といふことなのであります、それから國際政治、それが一つの政治機關として具體化したのは國際聯盟でありますが、經濟にあつては國際通商、文化にあつては國際文化といふ風に文化、藝術、政治、さういふ風な思想乃至は眞理、さういふものに對しては一切國境はないのだ、卽ち國家を否定して何か普遍的な眞理があるのだといふ風に唱へて來たのであります。併しこれは一定の自分の國土といふものを持たないユダヤに取つては當然の要求だつたのでありますが、併し一定の國土を持ち國力を背景にすることの出來る一つの民族といふものがさういふ風な國際性といふものに眩惑された場合、それは完全にユダヤの陰謀に引掛つたと言ふより外ないのであります。だから自由とか平等とかいふ言葉だけを捉へて考へて見ては何にもならないので、近世の學問といふものの最も大きな缺陷は、一つの言葉の持つ意義といふものを分析し、批判し、檢討するといふ

觀念の遊戯を續けて來たことであります。併し如何なる學問も當時の思想、政治、經濟、文化、凡ゆるさういふ現實面を離れては存在し得ないのでありまして、吾々は當に問題を探究する時にさういふもの自體との關聯を忘れてはならないと思ふのであります。さういふ觀點に立つて物を考へたらデモクラシーの基礎となつた自由平等といふものはどういふものであつたかといふことは凡そお解りになることだらうと思ひます。隨てその場合當然眞理といふことも一つの彼等の問題になつて居つたのであります。眞理には國境が無い、併しながらその國境が無いといふ言ひ方、卽ち國際性といふものの强調の仕方それは何を意圖するものであるかと言ふに結局國家否定なんであります。隨て秩序の破壞なんであります。これはフランス革命といふものの本體について能く考へて戴けば當然お解りになることだらうと思ひます。これが理解出來たら今日までの政治、經濟、文化、一切の近世文明といふものは完全に引繰返すことが出來ると思ふのであります。

今でもルーズヴェルトはアメリカは民主主義の兵器廠だといふ風なことを嘯いて居りますが、その民主主義といふことの持つ意味自體には何等の意義がないのであつて、唯だルーズヴェルトが實際に社會の現實的な政治力、さういふものを通してのみ彼は今日の地位を得て居るであります。

それではデモクラシーといふものについて少し考へて見ませう、誰もが自由を得誰もが平等である。多數に依る政治だといふことが一般の民主主義といふものの定義とされてゐるやうであります。寡頭政治でもなく、況してや君主政治でもなく、多數に依る政治。そこで民主主義といふものの原理になつて居ります自由平等でありますが、各人が自由であり、平等である、その各人が飽くまでも自由を追求し、飽くまでも平等を追求して行つた場合、そのやうな人間集團としての一つの集團の中に現はれる秩序が成立ち得るか否かと

いふことは當然考へられる疑問であります。其處に一つの合理的なバランスを與へる爲に考へられたのが多數決政治といふ代議制、所謂議會政治です、各人の自由平等を追求して行けば際限がない。さういふ各人の權利といふものの一つの合理化手段としてあゝいふ風なものが作られたのであります。それは結局自由主義といふものが當然内包して居る矛盾、それの解決手段として議會政治を見出したのであります。併しながら議會政治は決してその矛盾を解決するどころではなく、却てその矛盾を激化することに過ぎなかつたことは今日の實情が能く證明して居る所であります。實際多數決とは何かといふことを吾々は一考して見る必要があるのぢやないかと思ひます。例へばフランスが今日破れた最も大きな原因の一つは議會政治絶對依存であつたといふことだらうと思ひます。其處に於ては所謂多數者の政治が行はれた。ドイツが一九三六年にラインランドに進駐しましたが、その時に果して立上るべきや否やといふことはフランスの爲政者の最も大きな問題であつたのであります。その時ガムランは須くラインランドに進駐すべしといふ强硬な意見を吐いたのでありますが、その時の大藏大臣を初めフランス銀行の總裁等は現在大軍の出兵といふことはフランスの財政を危機に陷れるものである、フラン貨の切下、延いてはインフレーションの必至といふやうなことから猛烈に反對したのであります。さうして結局ガムランの意見が破れまして見事にフランスは敗退し、その時に既に今日のフランスの敗退といふものは豫見されて居つたわけであります。實際考へて見れば多數者に依る多數決政治といふものの本質は總てを量でのみ判斷するものであります。隨て其處では質は實際問題にされないのであります。百人居ればその中で五十一人が贊成すればそれで動議は成立する、さういふ救ひ難い形式主義であります。ところがそこで問題なのはその量の多數といふことが果してその場合の正しい判斷になり得

るかどうかといふことはこれは決定的な疑問であらうと思ふのであります。現にフランスの議會政治に依る多數者の政治は一人のヒトラーに遂に破れざるを得なかつた、議會政治といふものは量を絶對の標準としますが故に、どのやうな立派な英才があらうとも、どのやうな賢才があらうとも、それ等も總て自由平等の名の下に一つの單位としてしか扱はれないのであります。隨てその政治形態の下ではどのやうな英才も多數の愚昧に依つて取つて代られなければならないといふ情勢に置かれるのであります。民主政治といふものについて縷々述べましたが、斯んな事は一應考へて見たら分ることで、今日の民主政治といふものが實際に世界を指導するに足る政治原理であるならば、今日のやうな破綻は到底生れなかつた筈であります。だから現實の歴史の流れといふものが最も能く批判して來たわけであります。

それに代る政治機構といふものは如何なるものでなければならないかといふことでありますが、それは最早皆さん自身能くお解りのことと思ひます。それは結局天皇政治でなければならない。吾々が持つことが出來る政治といふものは天皇政治でなければならない。それは議會があるとかないとかいふこととは又別問題です。民主政治といふものは先申しましたやうに總ての標準を目に見える形、物の量、さういふもので總てを判斷しようとする、それは近世文化を支配した根本の原理でもあるのですが、今日でも亦さういふ思想に感染した所謂ヨーロッパ心酔といふ風な人々が言葉を吐く場合にも必ず量だけを標準にして物を言つて居る有樣です。例へばアメリカと戰ふ力があるかどうか、アメリカには飛行機がこれだけあるが、此方はこれだけである、アメリカには軍艦はこれだけあるが、日本にはこれだけしかない、さういふ目に現はれたものだけ、量だけを判斷して大小を決定するのであります。併しながら考へて見なければならないのは、果して然

らばさういふ目に見える表に見られるだけの大小に依つて價値が決定せられるものであるならば、最初に大きな陸軍を持つた者はいつまでも世界の覇者でなければならない筈であります。然るに世界は常に興亡變轉の後を繰返して來た。現に量が總てを決定するのであつたならば、彼のイングランドの海賊戰隊はどうしてもスペインのアルマダ大艦隊を破ることは出來なかつたでありませう。又明治三十七、八年、吾々の祖先が戰つた日露戰爭はさういふ量に依つてのみ判斷する場合到底勝ち得る筈はなかつたのであります。

斯る多くの矛盾に滿ちた民主主義といふものが如何に沒落して來たかといふことは最早縷說の要もないかと思ひます。それに代る世界の指導原理として現はれつゝあるものは所謂全體主義と言はれるものであります。民主主義に代れば既に全體主義だ、さういふ風に所謂日本の知識人は解釋しなければ承知しない。これは何たる情ないことでありませう。全體主義といふ風に言はれて初めて理解することが出來る。日本の政治形態といふものを考へて見た場合それはその儘全體主義とも言へたのです。寧ろヒットラーがナチス黨を率ゐる場合、ナチス黨の指導原理として掲げて來た公益優先といふ風なもの、滅私奉公といふ風な思想は犧牲的な日本精神といふものから敎はる所が多分にあつたのであります。日本が本來持つて居るさういふものに氣付かずに、ドイツ或はイタリーのナチス乃至ファッショが全體主義といふ風なもので表明され、それを輸入して來て初めて民主主義に代る全體主義でなければならぬといふ風にしなければ、日本の今の人々は、所謂インテリ階級の人々は理解出來ない、それは結局逆輸入して居るのです。

玆で民主主義といふものに代るこれからの世界の指導原理たらうとして居る全體主義といふものについてお話致します。それは單なる全體主義は將來世界の永久の指導原理になつて行かうとは一寸考へられないの

であります。どうしても世界を導いて行くものは日本でなければなりませんが、その時の政治原理、指導原理といふものは飽くまで天皇政治でなければならない。何故かと考へて見ますのに、民主政治にしても總て結局は自由平等といふものからそれを政治的に一つに纏める手段として選擧といふものを發明し、さうして一人の政治的な代辯者を選出してそれの指揮下に治安を保つて行くといふのでありますが、併しながらさういふ風な政治形態といふものは考へて見ますと、結局は選んだ者も選ばれた者もそれは等しく自由であり平等である、一單位としての人間でしかないのであります。其處には何等被治者として又治者としての差別はない筈であります。自由平等でなければならぬのですから其處に當然矛盾があるわけなんです。さうぢやなしに一つの秩序といふものは人間が作つた、人間が考へた、さういふもの以上のものだと考へられるのであります。それが人間が作つたものであつては、吾々としては一つの集團としての人間を統治する何等の力も理由も持ち得ないのぢやないか、一つのさういふ中心的な存在です。隨て民主主義といふ言葉自體を取つて見ても民が民を治めるといふことが早や一つの矛盾である。民主政治の本家と言はれるイギリス議會政治にあつてすらガヴァーン(統治)するのではないけれども、ルーイン(卽位)する皇帝といふものは存在して居る、それは一つの象徵なんです、やはり何かさういふものがないと民主政治であると言はれながらも一つの秩序を保つて行くことは出來ない、それが世界人類といふものを考へてそれの一つの中心となる、さういふ風な存在は何かといふことを考へて見た場合、これは吾々が選擧するとか何とかいふさういふ人爲を絕した一つの絕對でなければならないだらうといふことが考へられると思ひます。その場合に初めて萬人が承服し、萬人が納得し得る最も平和的な秩序が成立つと考へます。その場合に吾々は　天皇以外に考へられないのであ

ります。　天皇は神であらせられる、同時に又人であらせられる、西洋で言ふ所謂單なる神ではない、西洋では神と言つた場合には人間の對立者としての神しか考へない、だからその場合は兩者に何等の具體的な關係といふものがないわけであります。ところが我國の場合は　陛下は人であらせられ、同時に又神であらせられるといふ理由を以て絶對であると同時に又最も具體的に民草と關係をお持ちになられる位置にあるのであります。さういふ存在は世界にないのであります。それは觀念的であるとか何とかいふ風に言つて見たところで、實際に世界史がさういふ風に證明して來つゝある。近代の歴史を具さに見た人ならば何人も承服せざるを得ない所であると思ふのであります。現にこゝ二、三年來にしてヨーロッパに於ては次々と國の數が減つて行つて居ります。或はカイザーとかキングとか稱ばれた皇帝とか王とかいふ風なものが皆一固まりになつてロンドンに逃れロンドンでヒットラーのユンカースの急降下の洗禮を受けて居るではありませんか。今さういふ君主としてあるのは本當に指で數へる程しかないのであります。而も　天皇はカイザーとかキングといふ風なものとは到底同じ一言で理解することは出來ないことは申すまでもありません。宇宙に、大自然界に、太陽といふ一つの大きな中心があつて、一つの秩序を構成してゐると同じく、この人間界にあつても亦その太陽神話の直統であらせられる　陛下が人類の一つの中心をお作りになつて、其處に最も平和な、最も違つた意味の合理的な秩序といふものが成立し得べきことはこれは當然考へられるべきことであり、又吾々の確信でなければならないと思ひます。

然らば天皇政治とは何か、上御一人と下萬民の間に何等の別個な特殊な存在が許されざる君民一體としての政治であります。日本の歴史を見ても分ります様に、上御一人を天子と仰ぎ太陽と仰ぎ奉つてまつらはう

とする萬民の目を覆ひ、その間に立ちはだかるものがあつたことは皆さんも御存じであらうと思ひます。現在又新しく吾々が天皇政治を復活しなければならないといふ理由も斯る中間的な存在を拂拭しなければならないことにあるのであります。それは何であるか、皆さんも大體は御承知であらうと思ひますが、一言にして言ふならば國際金融資本であります。だから明治維新の時のさういふ風な中間的な存在が幕府であつたとしたならば、現在のそれは目には見えませんけれども、正しく國際金融資本といふ風なものと言つて宜からうと思ひます。併しながら幕府を倒して天皇政治を實現し得たのではないと同じやうに、現代に於ても斯る國際金融資本の分派の一、二を芟除して見たところで到底吾々の待ち望む天皇政治を實現することは不可能であります。何となればさういふ風な存在は決して別個に偶然に存在して居るのぢやなくて、一つの大きな母體を持つて存在して居るのであります。現に國際金融資本といふものが國際といふ名の示す通りアメリカでありイギリスでなければならないのであります。だからイギリスとかアメリカを絶對として居るそれの分派、さういふ風な存在を拂拭するには彼等が依存して居るさういふ風な本體を打倒する以外に方法はないのであります。皆さんも屢々お聽きになつたことと思ひますが、日本の斯る天皇政治を具現せんが爲めの方法としては畢竟對外的にイギリス乃至はアメリカに毅然たる敵對行動を執る、即ち攘夷を實行する。それが同時に内に於ては尊皇でなければならない。攘夷といふものが尊皇と即一體たらねばならぬといふことであります。今までの日本史の維新といふものは常にさういふ内外の同時維新であつた。内外の同時維新といふことは攘夷即尊皇といふことなのであります。内の革新と外の革新といふものが常に一つであつたことは皆さんも御承知のことと思ひます。而も對外的な攘夷といふことは即ち又戰爭といふことでもありまして、さう

いふ戰爭を通してのみ吾々の維新を實現することが出來るのであります。卽ち外的な力が我が神州に逼つて來た時に初めて已むを得ず破邪顯正の劍が拔き放たれる、卽ち攘夷を實行する。その時に同時に　天皇御親政が成立するのであります。例へばあの元がやつて來た時に龜山上皇が御祈願遊ばされたことにより始めて天皇を中心にして九州の民が一體たり得たのでありますが、そればかりでなく、明治維新の場合もやはり外から迫つて來る、さういふ風な外國の脅威に對して幕府は、最早それに對抗するだけの實力を失つてしまつた、その時に烏合の衆で對抗することが出來ない。どうしても一つの中心がなければならない。その場合それまで政權をお預りして居つた爲政者といふものは下るのです。　陛下が御自らお出ましになつて君民一體となつて外敵に當るといふのが最も特徴的な日本の歷史的な樣相なのであります。だから吾々がこの度の昭和維新乃至は世界維新と呼ばるべきこの次の維新の段階を迎へるに當つてもそれと同じ事が考へられるのでありまして、若し玆でアメリカの飛行機がやつて來て爆彈の一發でも東京へ落したらそれこそ問題は總て解決するのぢやないかと思ひます。併しながら吾々はそれを徒らに待つのみでなく、吾々がその戰爭を遂行して行かなければならないのであります。現在では南進といふことで言つても宜いと思ひます。それから南方進出を敢行して東亞共榮圈を作り、御稜威を世界に輝かせるといふ吾々の理想を實現して行かなければならない時に當つて最も大きな障碍をなしてゐるのは先程來申上げましたやうな自由主義である。と同時にもう一つの勢力があると思ひます。それは滿洲事變以來政黨政治に對する非が鳴らされて以來民主主義に代つて擡頭して來た社會主義であります。皆さんの中にはそれを具さに御體驗なさつた方もあるでせうが、大正の末期から昭和の初めに掛けての社會主義の猖獗といふものは、非常なものでありまして、當時日本の青年が

多數その思想に捉へられたのでありますけれども、併しながら考へて見れば寧ろその時に捉へられた青年はその當時を支配してゐた日本のさういふ腐敗した民主政治、政黨政治、自由主義、さういふものに對する忿懣の捌け口として求めたのであらうと考へるのであります、而もそれ以後既に十年、表てからは一應影を潛めたやうでありますが、未だ侮り難い力を持つて居るのであります。そしてさういふ社會主義といふものは現在の政治面では唯物的全體主義といふ風な言葉で以て一應表現出來るかと思ひます。丁度全體主義といふことが獨伊の勃興に依つて唱へられまして以來その全體主義に名を藉りて社會主義化を圖らうとする一群の人々、それ等の人々の思想を目して、一應唯物的全體主義と名附けても宜しいかと思ひます。併しそれの實體は結局社會主義以外の何ものでもない。併しながら社會主義といふものを翻つて考へて見た場合に、結局その本質は個人の權利を主張し個人の解放を主張する民主性といふものをその根本の指導原理として居つた自由平等、所謂人權宣言に發してゐるのであります。個人の解放、個人の權利といふものは社會主義に於てもより廣汎に大規模に提出されて居る、結局社會主義といふものはその根本に於て自由主義の延長でしかないといふことは最早皆さんに明かであらうと思ひます。事實その兩者の同質性といふものは必然的に兩者を合體せしめまして人民戰線を構成して來たのであります。それは蔣介石が孫文の後を繼ぎ民主政治を捉へながら結局は容共政策に進まなければならなかつたことに見ても分ると思ふのであります。今の日本の現象面に現はれてゐるさういふ風な政治的な性格といふものを拾つて考へて見た場合に、さういふ自由主義的なものとさういふ社會主義的なものとが日本の本當の發展を阻碍して居る。それ等は滿洲事變以來日本が持つてゐた絕大な國家エネルギーといふものに依つて完膚なきまでに何よりも現實的に批判され盡して來たのであ

りますが、それを一應言葉を以て解明して見るならば以上のやうな歸結にならうかと考へるのであります。而もそれに代るべき政治が天皇政治でなければならない。それは單に日本一國の政治原理であるばかりでなく、同時に世界政治の指導原理としての天皇政治を實現しなければならない。それのみが將來の指導原理たり得るといふことを申上げて一應私の話を終らうと思ひます。

411
23

政治原理の考察

不許複製

昭和十六年十一月廿七日印刷
昭和十六年十二月一日發行
〔非賣品〕
編者　スメラ民文庫編輯部
東京市京橋區銀座西五ノ五 菊地ビル
スメラ民文庫編輯部内
發行人　難波浩
東京市麹町區有樂町一ノ一四
印刷人　中村伯三
東京市麹町區有樂町一ノ一四
印刷所　株式會社大參社
東京市京橋區銀座西五ノ五
菊地ビル
發賣所　世界創造社
會員番號一一四〇一三番
電話銀座(57)五三八九番
振替東京一一六一四二番
東京市神田區淡路町二丁目九番地
配給元　日本出版配給株式會社

終